

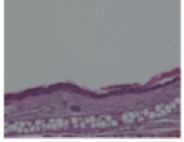
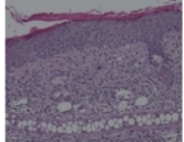

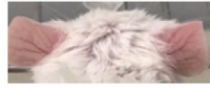
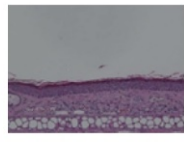
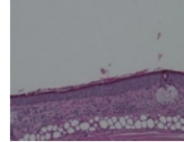


第50回日本皮膚免疫アレルギー学会

アトピー性皮膚炎マウスに対するiGS4000 Gel の塗布実験(処方箋との比較実験)

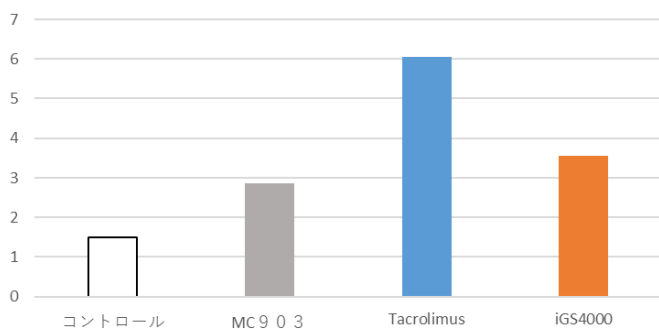
マウス組織実験

control	MC903
	
	
通常の肌組織	炎症を起こして組織が腫脹(腫れている)

iGS4000	Tacrolimus
	
	
最も組織が整っている	iGS4000と比較すると少し荒れている

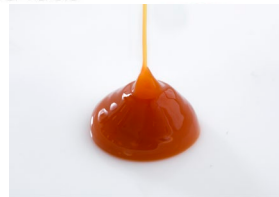


マウス引っかかり回数 (15分)



※引っかかり回数実験の加重平均はタクロリムス6.05回
iGS4000は3.55回でiGS4000の方が約1/2に抑制

iGS4000

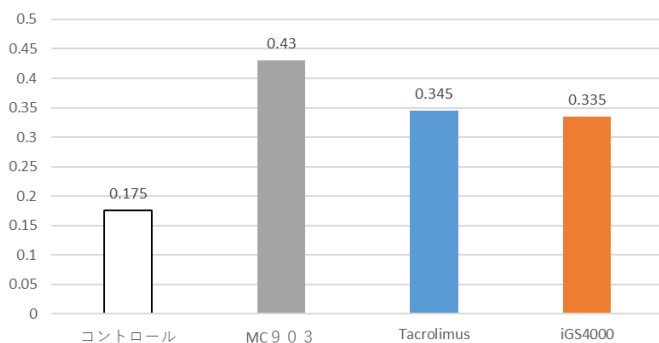


Tacrolimus (処方薬)

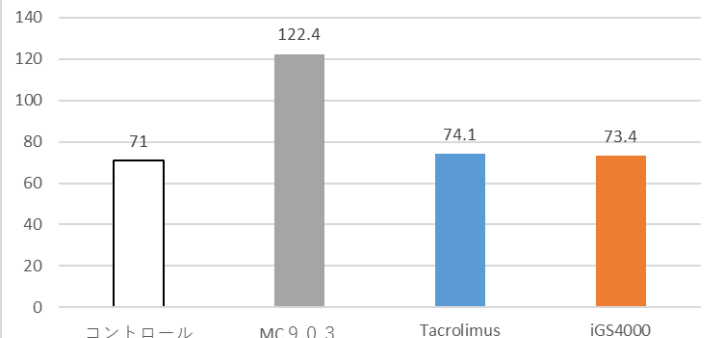


※MC903はアトピー性皮膚炎誘導成分

マウス耳介の変化



マウス血清中のTARC/CCL17濃度



4. 痒み抑制につながるセマフォリン3A産生実験

iGS4000はアトピー性皮膚炎マウスの掻破行動
および血清TARC濃度を減少させ、皮膚組織細胞での
semaphorin3A産生に關与する可能性が示唆された。

研究実験 国立徳島大学
宇都義浩教授

